

令和7年度 非核平和広島派遣事業

— 報告書 —



愛 西 市

非核平和広島派遣事業の実施にあたって

愛西市は、平成17(2005)年9月9日に「非核・平和都市宣言」を行いました。原爆による被爆体験が風化されつつある中、核兵器の脅威と人類の恒久平和への願いを改めて訴えることを誓うものです。また、平成24(2012)年9月には「平和首長会議」に加盟しました。同会議が提唱する趣旨「世界の恒久平和の実現に寄与するために、世界の都市と都市が国境を越え、思想・信条の違いを乗り越えて連携し、核兵器の廃絶に向けて努力する」に賛同し、国内外の都市とともに平和の尊さを伝えていくためです。

本市では、被爆の実相と平和の大切さ、命の尊さを知り、戦争の悲惨さ、残酷さを将来にわたって伝え、戦争や核兵器の無い平和な未来を築くため、市内の中学生を広島市へ派遣する「非核平和広島派遣事業」を毎年実施してきました。令和7年度は、8月5日、6日の2日間において、市の代表として中学生24名を派遣いたしました。

生徒たちは、市民の皆様が平和の祈りを込めて折って繫げた千羽鶴を、平和記念公園内にある「原爆の子の像」に捧げました。そして、広島平和記念資料館の見学や平和記念式典への参列などを通じて、戦争の恐ろしさ、平和の尊さについて学ぶことができました。

本書には派遣生徒たちの感想文を掲載しています。実際に現地を見て、聞いて学んだこと、感じたことを素直に記した感想文です。一人でも多くの方にご覧いただき、平和の尊さを改めて感じ、考えるきっかけとなれば幸いです。

派遣された生徒は、各中学校で事業報告会を行うとともに、翌年の市平和祈念式では代表生徒が感想文を発表するなど、平和への思いを言葉にして伝えてまいります。

おわりに、千羽鶴の作成、系通しにご協力いただいた市民の皆様に、お礼を申し上げます。

令和7年度非核平和広島派遣事業(概要)

目的

愛西市内の中学生の代表者を広島県広島市へ派遣し、袋町小学校平和資料館、平和記念公園、原爆ドーム、平和記念資料館等の見学をするとともに、8月6日に広島市において開催される平和記念式典に参列し、平和の尊さを学ぶ機会とする。

また、引率教諭は、行程中生徒を指導し、自身も平和について学んで自己啓発するとともに、学校での平和教育等に活かすこととする。

派遣団

愛西市立中学校の3年生24名及び引率者6名(教諭4名・市職員2名)

▪ 生徒(24名)

(佐屋中学校)

藤原 莉玖 竹口 慶志朗 辻田 光来 寺坂 かなえ

(永和中学校)

加茂谷 修平 中西 総次郎 松田 絢愛 奈佐 琴未

(立田中学校)

伊藤 雅斗 佐々木 千章 大西 紗礼 山田 みき

(八開中学校)

川路 進太郎 藤井 瑞人 今須 紗瞳 岡林 百華

(佐織中学校)

水野 太雅 花木 健優 林 勇太 山下 琳久

(佐織西中学校)

河邊 虎太郎 長瀬 倭 野尻 望恵 里村 新菜

▪ 引率教諭(4名)

大城 良介(佐屋中学校) 山端 明代(立田中学校)

三木 茜(八開中学校) 山田 賢(佐織西中学校)

▪ 市職員(2名)

伊藤 昭良(学校教育課) 青木 智史(経営企画課)

実施日及び場所

- ◆ 派遣説明会:令和7年7月1日(火)
(愛西市役所)
- ◆ 派遣日程:令和7年8月5日(火)～8月6日(水)
(広島県広島市)

活動内容

- ◆ 派遣説明会への参加、副読本の通読
- ◆ 「第1回全国平和学習の集い」への参加
- ◆ 千羽鶴の献納、献花(平和記念公園内原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑)
- ◆ 平和記念公園、原爆ドーム、平和記念資料館、袋町小学校平和資料館等の施設見学
- ◆ 平和記念式典への参列
- ◆ 派遣事業感想文の作成
- ◆ 各中学校において派遣生徒による事業報告会の実施
- ◆ 翌年の愛西市平和祈念式において代表生徒4名による感想文発表



活動レポート

❖事前説明会 令和7年7月1日 16:30～ ≪愛西市役所南館会議室 1-4≫

1. 主催者あいさつ

市長、教育長よりあいさつがありました。
市長から「平和について自分なりに考えてきてください」と激励メッセージを受け、広島での学習に向けた決意を抱きました。

2. 班分け・自己紹介

各中学校から生徒1人ずつ、計6人の班をつくり、4班に分けられました。これ以降は班で行動する場面がほとんどとなります。

この日が初対面となり緊張しながらも、先生を交えた自己紹介とアイスブレイクによって、今後行動をする仲間との親睦を深めることができました。



3. 日程等の説明

市職員より事業の日程について説明がありました。
実施要領を見ながら、集合時間や各行程、持ち物などを確認しました。

4. 事前学習

戦後まもなく撮影された映像を使用したドキュメンタリーDVDを鑑賞し、原子爆弾による被害の様子を学びました。

DVDで取り扱われているのは袋町国民学校と相生橋で、それぞれ1日目と2日目に訪れる予定の場所です。戦後すぐの様子を見ることによって、現地を訪れる際との違いに目を向けることができるようになりました。

また、令和7年度非核平和広島派遣事業では「第一回全国平和学習の集い」に参加し、全国の小中高生とディスカッションを行うため、より事前学習への意欲が高まりました。

❖広島派遣 1日目 令和7年8月5日 ≪広島県広島市内≫

1. 袋町小学校平和資料館 12:30～

袋町小学校平和資料館を見学しました。

資料館内には被爆者の所在を記した壁のほか、被爆によるけが人がそこにいたことを示す跡もあり、救護所となっていた当時の姿を思い起こさせるものでした。

家族を探す様子を記録したビデオを視聴して、原子爆弾投下によって日常が急変してしまったことを学びました。



2. 全国平和学習の集い 14:00～

全国平和学習の集いは、公益財団法人広島平和文化センターが主催する学習会で、8月5日の平和学習の集いには日本全国から13自治体・129人の小中高生と49人のユース・ピース・ボランティア（広島の中高生で構成される、広島から平和のメッセージを発信する団体）が参加しました。

ユース・ピース・ボランティアによる原爆被害の説明と、被爆者である才木幹夫さんの被爆体験講話を聴講することで原爆による被害の甚大さ、悲惨さを再認識するとともに思いやりによる行動の大切さを学びました。

その後、「あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けましたか」と「今、平和でない状態とはどのようなことがありますか。それはどうしたら解決できると思いますか」の2テーマについて、グループディスカッションを行いました。

他自治体の参加者と意見を交わしあい、平和な状態を作るために身近なところから取り組んでいくことを確認しました。



1. 平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)へ参列 8:00~

午前6時45分に平和記念公園へ向け出発し、平和記念式典へ参列しました。式典が始まる1時間以上前から平和記念公園には長蛇の列ができており、平和への想いは共通のものであることを再認識しました。今年度は新たに4,940名の原爆被害死没者の名簿が奉納されました。

【式典の内容】

開式

原爆死没者名簿奉納

広島市長

遺族代表

式辞

広島市議会議長

献花

広島市長

広島市議会議長

遺族代表・こども代表

被爆者代表

来賓

黙とう・平和の鐘

平和宣言

広島市長

放鳩

平和への誓い

こども代表

あいさつ

内閣総理大臣

広島県知事

国際連合事務総長

ひろしま平和の歌

閉式

厳かな雰囲気の中、広島市長の平和宣言、こども代表の宣言などを聞き、平和への想いを新たにしました。

平和記念式典に参列した後は原爆死没者慰霊碑に献花をしました。

碑に刻まれた「安らかに眠ってください 過ちは繰返ませぬから」の言葉を間近で見て、戦争の惨禍を忘れることなく、語り継いでいくことが求められていると感じました。



2. 原爆の子の像・原爆ドーム見学 9:30～

市民の方々の祈りが込められた折り鶴を原爆の子の像に奉納しました。

奉納場所には世界各地から寄せられた千羽鶴が無数に奉納されており、平和を祈る想いの大きさを実感しました。派遣団一人ひとりが千羽鶴を奉納し、手を合わせて平和を祈念しました。



千羽鶴の奉納後、原爆ドームの見学をしました。

原爆ドームは原爆投下地点のわずかに北西に位置し、ほぼ垂直に爆風を受けたために外壁と骨組みが残っています。元の立派な姿を思わせる遺構を見学し、原子爆弾の威力の甚大さを感じ取りました。



3. 広島平和記念資料館見学 11:00～

広島平和記念資料館を見学し、原爆被害に関する資料を閲覧しました。

館内には被爆直後の実相を写した写真や、物品、手紙などが展示されており、衝撃的なものも少なくありませんでした。書籍等で読んで学ぶ以上に戦争の悲惨さが訴えかけられているように感じられました。



派遣生徒感想文



想いを背負って

佐屋中学校 寺坂 かなえ

80年前のあの日、一発の原子爆弾によっていつも通りの生活は一瞬で地獄と化しました。

私は非核平和広島派遣事業に参加させていただき、被爆者の想いを直接感じられる貴重な経験をすることができました。戦争は決して起こしてはいけないものだということは私自身もわかっていることでしたが、どこか自分の中で現実味のない遠い出来事だと感じていたのかもしれませんが、しかし、語り部さんのお話や、原爆資料館などに行って私の考え方は変わりました。一発の原子爆弾により、一瞬にして街は焼け野原となり、人々は皮膚がただれ、なかには黒焦げになり即死してしまった方達もいました。それが数人ではありません。何万人もいたのです。語り部さんのお話からは、生き延びた方の心の痛みや辛さを深く感じとることができました。軽いやけどや傷を負っていなくても、残留放射線によって白血病などの後遺症に悩まされた方も居たのです。

私は平和記念式典に参列し、心に残った言葉があります。それは「ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながる」という言葉です。平和を願うだけではなく、平和にするにはどうすればいいのか、考えそれを発信していくことが平和につながるのだと強く感じました。

私はこの事業に参加する前、戦争についてよく理解しているつもりでした。ですがそれは違いました。戦争を理解するということは、平和や人々の命の尊さについて考え行動に移し、核廃絶に向かって学び直すことなのではないかと思いました。

終戦から80年が経つ今こそ、改めて平和について考えていかなければならないと思いました。原爆により亡くなられた方々、生き延びられた方々のためにもこの事実を、実際に見て学んできた私が伝えていかなければならないと思いました。また今もなお戦争を続けている国がある事実に向き、平和を願い続けていきたいと強く決意しました。

「思いやる」

佐屋中学校 辻田光来

私は非核平和広島派遣事業に参加し、戦争について多くの貴重な学びを得ることができました。この事業に参加するまで、学校での授業やニュースなどで原爆・戦争のことを聞くくらいに経験しかありませんでした。また、どこかで「近年、日本で戦争は起きていないから」と戦争そのものから目を逸らしてしまう自分がいたかもしれません。実際に現地を訪れ、袋町小学校や原爆ドーム、平和記念資料館で、戦争の悲惨さや恐ろしさを目の当たりにしてとても衝撃を受けました。原爆によって骨組みだけになってしまった原爆ドームは、核兵器の恐ろしさを物語っていました。また、平和記念資料館では、原爆投下によって亡くなってしまった子供達の遺品のお弁当や三輪車、7年後に発掘された遺骨の写真を見て、心が苦しくなりました。それと同時に、こんなに多くの人から多くの幸せを奪った核兵器を、今も9カ国が所持している状況が恐ろしいなとも感じました。

平和学習の集いに参加して、心に残っている言葉があります。それは被爆者である才木幹夫さんが何度もおっしゃっていた「思いやる」という言葉です。身近でよく聞く「思いやる」という行動が、戦争に繋がっているとは一切考えていませんでした。しかし、思いやることで平和への一歩を踏み出せるというお話を聞いて、戦争がもう二度と起きないように思いやりの心を大切にしていきたいと強く思いました。

私は平和非核広島派遣事業に参加して、戦争を経験していない私たちの世代こそが戦争や平和の大切さ、命の尊さについて意識を向ける必要があると感じました。戦争を経験した方々から直接お話を聞ける機会は徐々に減ってしまいます。だからこそ、私たちが戦争について学び、後世に伝え続けていかなければなりません。私も、広島で見て学んだ戦争のこと、平和の大切さ、命の尊さを多くの人に伝えていきます。今、当然のように続いている毎日は突然に奪われるかもしれないという危機感を持ち、「思いやる」心で身近なことから幸せな世界につながる行動をしていきたいです。

「戦争・原爆の恐ろしさ」

佐屋中学校 竹口 慶志朗

僕は、今回非核平和広島派遣事業に参加させていただき、考えを深めることができました。教科書で見たり家族や先生から話を聞いたりした経験から、戦争や原爆のことを知っていると思っていました。しかし、受け継いでいく為に残っている原爆ドームや平和記念資料館、袋町小学校などを訪れ、この2日間で戦争・原爆の恐ろしさについて改めて考えることができました。

特に印象に残っているのは、平和記念式典に参列した際の事です。僕は、式典で平和宣言や平和への誓いを聞いたときに、ただ平和を願うのではなく、今の自分にできることはないのかと考えることができました。また、式典中に聞いた「広島平和の歌」は、聞く前と後で印象が異なりました。聞く前は、平和を願う明るい曲なのだろうと思い込んでいました。しかし、実際に聞いた僕は、平和への思いよりも先に怖さを感じました。印象が変わったのは、現地を巡って戦争の悲惨さを目の当たりにしたことで、曲に込められた戦争に対しての強い思いや悲しみ、恐怖を感じ取れたからだと思います。

また、平和学習の集いでは、同じ愛西市の中学生のみではなく、県外から多くの中高生が参加し、意見を交える機会がありました。それぞれの地元でどのような戦争の被害があったのかを各グループで話し合い、意見を出し合ってまとめていきました。新しい発見や今まで知らなかった事も多くありました。

「We're Peace-Loving Citizens!」（平和を愛する市民）を合言葉に、非核平和広島派遣事業に参加し、貴重な体験ができたことに感謝しています。この2日間を通して、目で見、感じたことを心に刻み、想いを繋いでいきたいです。

広島派遣について

佐屋中学校 藤原 莉玖

私は、非核平和広島派遣事業に参加させていただいて戦争・原爆の恐ろしさについて改めて学び、知ることができました。

この派遣事業では様々な施設や式典に見学・参列をさせていただきました。私は平和記念資料館が特に印象的に残っています。訪れる前から私は、戦争を行わない方がいいとは思っていました。また、戦争はどちらかがすぐに降伏して終わるものだと簡単に考えていました。しかし、実際は原爆が使われるほどの惨劇へと発展し、たった一発の原爆でその地域が壊滅的な被害を受けました。原爆が無差別に多くの命を奪う最悪な兵器であることを知り、恐怖を感じ、展示で足が止まってしまったことを今でも覚えています。また平和記念資料館には、子供達の遺品や火傷などの被害を受けた後の資料などが多く展示してありました。私は、日本でこれだけの痛ましい出来事がおきてしまったことを知り、戦争を経験した人々の悲しみや憎しみ、恐怖を何度も何度も感じ取ることができました。

さて、原子爆弾が世界のどこかにあることは果たして「平和」だといえるのでしょうか。私は、原子爆弾を持っている国が、原子爆弾を持たない国を脅して何でもできてしまう世界を作ってはいけないと強く思います。原爆を使った国を恨み憎むことでは、平和な世界を作ることはできません。私たちは、これからできることを常に考え行動し、原爆や戦争のない世界を目指していく必要があると考えています。その為にもまず私は、今回参加させていただいた派遣事業で学んだこと・感じたことを家族や友人に話して、平和への想いを繋いでいきたいです。

広島派遣

永和中学校 加茂谷 修平

僕は、8月5日、6日に非核平和広島派遣事業に参加してきました。僕は、初めて広島市を訪問しました。これまでは広島での戦争の辛さなどは聞いたことがありました。ですが、実際に訪れたことで戦争・平和について間近で感じ、より深く考えることができました。

僕は最初に袋町小学校にいきました。そこには原爆が落とされた時のまま残された壁がありました。80年前のこの場所で楽しく学校に通っていた子どもたちは突然命を奪われてしまったことを知りました。たった一発の原爆のせいで一瞬にして子どもたちの未来が奪われたと考えると、とても胸が苦しくなりました。

次の平和学習の集いでは広島だけでなく、日本のさまざまな地域でも被害がたくさんあったことを知ることができました。戦時下の日本ではどこにいても空からの攻撃が迫ってきました。僕は今空からたくさんの爆弾が降ってくると考えただけでゾッとしてしまいます。そして被爆者である才木幹夫さんの話を聞きました。そのお話を聞く中で僕の胸に深く刻み込まれた言葉があります。それは「互いの理解」です。自分を相手の立場に置き換えて考えてみることで、自分のあやまちなどに気づくことができます。気づいて正しい方向に進み直すことができます。これが全世界の人々にできたら、戦争、喧嘩、いじめはなくなります。僕はこの言葉がその通りだと思いました。僕たちが才木さんのような語り部さんの意思を引き継いでこれからの人生に生かしていきたいです。

そして広島派遣2日目の8月6日には平和式典に参加しました。原爆投下から長い年月が経った今も人々が平和を願い、祈りを捧げている姿を見て、平和の大切さを実感しました。献花をしているときには亡くなってしまった人たちの思いを受けようと意識し、これからの自分の生活で何ができるか考えました。

僕は広島派遣を通して、たくさんのことを学び、戦争の辛さ、怖さを学び、「命の重さ」を強く感じました。この体験を絶対に忘れず、戦争のない未来を作りたいと強く思いました。

広島派遣

永和中学校 松田 絢愛

私は、2日間の広島派遣事業の中で戦争による被害について、様々なことを学びました。1日目の最初に袋町小学校に行きました。袋町小学校には、広島に原爆が落とされる前後のことがたくさん書かれていました。原爆の前、一度警報が鳴り、その後解除されたそうです。そこで、ほっと一息ついた時に、原爆が投下されました。原爆が投下された後、袋町小学校の壁は広島の人々の伝言板として使われました。そのため小学校の壁には、様々な人の名前が刻まれていました。小学校の最上階には、たくさんの千羽鶴が飾られていました。それらは、袋町小学校の6年生が折ったそうです。また、入り口には原爆が落ちた瞬間の写真などが飾られていて、原爆の怖さを感じました。その後私達は、ホテルで広島市主催の全国平和学習の集いに参加しました。ここでは、被災者の方の話聞いた後、全国から集まった中学生と2つの議題について話し合いました。1つ目の議題は、「あなたの地元では、第二次世界大戦にどのような被害を受けましたか。」でした。空襲によって都会だけでなく、武器の工場がある田舎も被害を受けたことを知って、本当に戦争はたくさんの人の命を無差別に奪ってしまうのだなと思いました。2つ目の議題では、「今、平和でない状態とはどのようなことがありますか。」について話し合いました。いじめや戦争を防ぐには、どちらにも、お互いに相手を知ろうとする気持ち、思いやりの気持ちが大切だということがわかりました。そして話し合いを通して、友達との関係も、国同士の関係も、大切なことは同じなのだなと気づきました。

2日目は、平和記念式典に参加しました。とても大切な経験になったと感じました。その後に、平和記念公園をまわって、千羽鶴を原爆の子の像の下に飾り、広島平和記念資料館で広島戦争についての記録を見ました。この2日間で戦争についての理解がより深まりました。核兵器を世界から1つ残らず無くすことが、世界平和への第一歩だと強く思います。

広島派遣

永和中学校 中西 総次郎

私は、愛西市の非核平和広島派遣事業で2日間広島に行きました。私たちは初めに、袋町小学校に行って、市民が連絡を取るために校舎の壁に刻んだ文字を見ました。その文字を見て、原子爆弾が被爆者だけでなく家族などの親しい人にも影響を与えることがわかりました。それでも自分の大切な人を諦めずに探し続ける人たちの気持ちの強さも同時に感じました。

次に、私たちは、平和学習の集いに参加しました。そこで原子爆弾が広島の大範囲を数千度の熱風で焼き尽くしたと聞いて、当時の広島がどれだけ悲惨だったかを考えさせられました。また、被爆者を探しにきた親族の方々の中にも残留放射線を浴びたことで苦しんだ人もたくさんいたと聞いて、原爆というものは、多くの罪なき人の命を無差別に奪ってしまう、あってはならない兵器と感じました。その後、被爆された方の話を聞いて、被爆者の苦痛や核の非人道性、そして平和のためには、思いやる心を持って、お互いが理解して認め合い、利己的な考えをやめて、周りのことを考えることが大切だと教えていただきました。

そして2日目に広島の大平和記念式典に参加しました。平和宣言や平和への誓いで、このことを風化させないという思いが伝わってきて、自分もこの派遣事業で見聞きしたことを忘れたくないと感じました。そして、原爆の子の像に千羽鶴を奉納した時に、全国各地からの千羽鶴が奉納されていて、全国の人々の平和を願う気持ちが広島に集まって一つの大きな力になっているように感じました。

最後に、私たちは広島平和記念資料館に行き、被爆者の遺品などを見て、当時の原子爆弾の威力がどれくらいだったのかが生々しく残っていて、原爆の恐ろしさを目で見て実感することが出来ました。

私は広島派遣を通して、戦争や原爆は恐ろしい物という考えがより強くなりました。この広島派遣は私にとって非常に貴重な体験になりました。私の体験したことや平和の体験を周りの人に伝えていきたいです。

広島派遣

永和中学校 奈佐 琴未

世界唯一の被爆国である日本では、広島と長崎に落とされた原子爆弾が瞬く間に街を焼き尽くし、数え切れないほどの人々の命を奪いました。戦後80年という長い年月が経っているのにも関わらず、家族と会えていない方や後遺症が残っている方が今でもいます。

1日目の平和の集いでは実際に戦争を経験した方からお話を聞いたり、戦争の映像を見ました。その日は何も無い普通の日だったけれども、たった一つの爆弾によって日常が奪われたことを聞いた時、想像以上の爆弾の威力に恐ろしさを感じました。また映像の中には一瞬にして人が居なくなる映像があったり、痛みにもがく人、水を求める人が居たりしました。私はその映像を見て、驚いたと同時に悲しい気持ちになりました。きっと、私たちには想像できない痛み、哀しみで溢れかえっていたのだろうと思います。

また、建物に対しての被害は授業などで知っていましたが、人に対しての被害はよく知りませんでした。2日目に行った平和記念資料館で 原子爆弾が人に与えた被害について知ることができました。特に印象に残っているのは、戦争で負傷した患者を治療している写真と火傷で全身の皮膚が爛れている写真です。私はその写真を見て言葉を失ってしまいました。モノクロの写真からでも痛々しさが伝わってきました。たとえ長い年月だろうともその恐ろしさや悲惨さを訴えかける写真だと感じました。

私は非核平和広島派遣事業を通して戦争に対しての見方が大きく変わりました。戦争や紛争などの国際問題に対し、きっと自分には関係がないことだろうと思っていた自分がいました。しかし、100年も200年もこの出来事を伝えていかななくてはならないと思うようになりました。戦後80年が経ち戦争を経験した人も僅かになってきました。 その中でも悲劇を繰り返さないために自分ができることを考えることが大切だと改めて思います。

広島に行って分かった事実

立田中学校 伊藤 雅斗

広島派遣で訪れた平和記念公園、原爆ドーム、平和記念資料館、そして平和記念式典を通して、広島で起きた出来事が、想像以上に恐ろしく、残酷で悲しいものであったことを深く感じました。

原爆ドームは、1945年8月6日に起きた原爆投下の悲惨な状況を今に伝える場所でした。実際にその場に立つと、原爆の恐ろしさや、命の重みを感じさせられました。近くの川では、手を合わせて頭を下げている外国人の姿を見かけました。後から、それは原爆で水を求めて川に飛び込んだ人々のことを思っただと知り、その姿に心を打たれました。また、平和記念資料館を訪れ、実際の写真や地図、映像などを見ました。当時の惨状がリアルに伝えられていて、自分の中の想像をはるかに超えていました。

平和記念公園には、たくさんの方が献花されており、多くの人々の平和への思いが伝わってきました。私たちも平和への思いを込めて、折り鶴を添え、献花をしました。平和記念式典で聞いた広島市長や広島の子供たちの話、そして石破総理のスピーチ、どの話も、戦争や原爆の残酷さ、何より平和の大切さを強く訴えていて、心に深く残りました。

今回の派遣を通して、これまで自分が考えていたよりも、戦争や原爆というものは、ずっと難しく、そして恐ろしいものだと思えました。そして、「自分に何ができるのか」「これからどう生きていくべきか」という思いが自然と湧いてきました。

広島の人々が体験した恐怖や悲しみ、また平和を願い続ける強い思いを、自分の中に受け止め、これからの生活に活かしていきたいと思えます。そして、この貴重な体験を、地元・愛知で多くの人に伝えていきたいです。

広島に行って

立田中学校 佐々木 千章

「水をくれ。」酷い火傷を負い、喉の渴きを訴える人々。「生きている人はいないか！」死体が並んでいる川で生存者を探す声。

1945年8月6日、午前8時15分。1つの原爆によって、広島の人々の当たり前の日常が奪われた。

広島の平和記念資料館を見学して、言葉では言い表せないほどの胸の痛みを感じた。全身の皮膚がただれ、助けを求めてさまよう人々の絵。原爆で亡くなった人が使っていた遺品。ケロイドや白血病などの後遺症に苦しめられた人たちの写真などが展示されていた。これらの資料を見て感じたことは、事前に調べた時に思った「怖い」や「危険だな」という感想をはるかに超えた感情だった。

平和記念式典では、小学6年生による平和への誓いがあった。『いつかは訪れる被爆者のいない世界』という言葉が深く心に刺さった。戦後80年となり、被爆者の高齢化が進んでいる。僕が危惧するのは、実際に原爆の被害を受けた人がいなくなると、残るものは史料だけになってしまい、現実味がなくなり、ただの史実としてのみ残され、原爆投下の記憶が風化していってしまうのではないかということだ。原爆の残酷さが忘れ去られた時、また核が使われてしまうのではないかと考えてしまう。

それを防ぐために、広島派遣に参加した僕達にできることは、原爆によって失われた広島の人々の大切な日常を忘れずに、広く発信し、周りの人たちが核兵器の非人道性、残忍さについて考えるきっかけを作ることだと思う。

最後に、戦後80年を生きる僕たちの使命は、皆が他者に対して思いやりの心を持ち、核は二度と落としてはいけないものだという強い意志を抱き、平和な世界を築いていくことだと思う。

広島

立田中学校 山田 みき

初めて訪れた広島は、「本当にここが原爆の被害を受けた場所なのか」と思うほど信じられないほどの都会でした。しかし、資料館を巡るうちに、原爆被害のあまりの悲惨さに言葉を失っていきました。爆心地から近い袋町小学校に、被爆当時の頑丈な校舎が残されていて、当時は避難場所や救護所となっていたそうです。校舎の壁は、はぐれた家族や知人の消息を知るため、伝言板として使われていました。それを見て、80年前実際に被爆者がここで必死に大切な人を探していたと知り、その人たちがどんな思いでいたのか、ほんの少しわかった気がします。

平和学習の集いでは、才木幹夫さんの被爆体験を聞きました。幹夫さんの父親は、爆心地近くにいたため、腕にひどい火傷を負い、時間が経つと皮膚がただれてしまったそうです。周囲には、全身に火傷を負った人も多く、熱さと喉の渴きに苦しみながら、水を求めてさまよっていたと聞きました。その姿があまりにもかわいそうで、幹夫さんが水をあげたところ、「水をあげると死んでしまう」と他の人に言われたそうです。助けたいのに助けられなかった無力さや悔しさを感じたと語っていました。

平和記念資料館にも、全身に火傷を負った人々が水を求めてさまよう絵や、皮膚が黒く焦げた写真、爆心地周辺の写真などが展示されていました。特に、さまよっている人たちを描いた絵は、とても衝撃的でした。絵や写真を通して、当時の状況の過酷さがよりはっきりと伝わってきました。また、平和記念資料館には、当時中学生の遺品として、焼け焦げた学生服や生徒手帳も展示されていました。本来なら私と同じように学校に通い、友達と楽しい毎日を過ごしていたはずです。しかし、戦争によってその日常を奪われ、原爆で命を落としてしまったことを思うと、胸が締めつけられる思いがしました。

平和とは何か。私は「戦争がなく、安心して暮らせる状態」だと思っていました。しかし、平和学習の集いでさまざまな地域の学生の意見を聞き、「思う平和」はそれぞれ違っていました。心と体が傷つけられないことが平和の共通点であると気付きました。平和を実現するためには、まず身近ないじめをなくすことが大切です。いじめをなくすには、相手の気持ちに寄り添い、「自分がされたら嫌なことはしない」という当たり前のことを実行することが必要だと改めて感じました。これは戦争も同じです。しかし、今も戦争が起り、核兵器も存在しています。核がある限り、その脅威も消えません。広島や長崎の経験から、核の恐ろしさは世界中が知っているはずなのに、それでも無くならないのは「自分さえ良ければいい」という考えがあるからではないでしょうか。もし一人一人が相手を思いやる心をもてば、世界はもっと平和に近づけると思います。

広島に行って

立田中学校 大西紗礼

私は、愛西市非核平和広島派遣事業に参加し、実際に現地を訪れて戦争と平和について学びました。参加前は、「平和＝毎日ご飯が食べられて、夜も安心して寝られる」というイメージだったのですが、現地での体験を通じて、その印象は変わりました。

袋町小学校平和資料館に展示されていた伝言文字が記されている壁に、娘を探す母親の伝言や、自宅の住所の伝言などが沢山書かれているのを見ました。それから当時の人たちが絶望の中でも生きることや、伝えることを諦めなかったことが分かりました。

平和学習の集いのテーマ①では、地元だけでなく、他の地域の被害を知りました。なぜその地域が攻撃の対象になったのか、どんな被害を受けたのかなど戦いの根源から今の状況まで詳しく考えさせられる機会になりました。テーマ②では、今、平和ではない状態とはどのようなことか、その解決方法は何かということに対してグループディスカッションを行いました。平和ではない状態として、軍事的なこと以外にも貧困や差別、いじめなどの意見が出ました。私はその時、身近なところにも平和でない状態が潜んでおり、なかなか解決が困難な問題があると気づきました。

また、才木幹夫さんのお話の中で「お互いを理解する」「利己的にならない」という言葉を何度も耳にしました。その言葉は才木さんが強く思っていることで、特に私たちに伝えたいことだと思います。被爆者の方から、直接話を聞ける機会はとても貴重で滅多にないことなので、この思いを私たちが後世に伝えていかなければならないと改めて認識しました。

原爆ドームは、写真で何度も見たことがありましたが、実際に目の前に立つと、ただの「遺構」ではないことを体感し、当時の悲惨な状況が想像できました。平和記念資料館は、思っていた以上に圧倒されました。展示には、一目見ただけでも目を逸らしたくなるような写真や絵がたくさんあり、私と同じ年の方の遺品もありました。被爆者の中にも、自分と同じくらいの方がいたと思うと悲しくなりました。

この二日間を通して、平和の尊さや今私たちがすべきことを学ぶことができました。また、平和とは一部の人たちが幸せなことではなく、誰もがその人らしく生きられることだと気づきました。そして、今回学んだことを周りの人に伝えて、皆で平和への努力をしていきたいです。

平和な未来の実現

八開中学校 今須 紗瞳

「世界平和を祈っている」「悲劇を繰り返したくはない」被爆者から聞いた言葉が今も心に残っています。8月6日の平和記念式典。多くの人が平和への祈りと、核兵器廃絶への願いを語っていて、胸が苦しくなり何とも言えない気持ちになりました。振り返ると、そこには今にも崩れてきそうな原爆ドーム。こんな姿になっても今も残っていることと、そんな原爆ドームに対し、深々と頭を下げている人、何百とある千羽鶴を見て多くの人が平和を願う強い思いを感じました。その後、平和記念資料館を訪れました。私たちと同じようにいつも通りの毎日を送り、笑って過ごしている人たちの写真を見ました。その光景が次の写真で一変しました。1つの爆弾で多くの人々の命が消え、生き延びてもなお苦しんだ人がいるのだと知りました。なんの罪もない人が、これからの未来に夢と希望をもった人があの日、全てを失い犠牲になった衝撃の事実を見て胸が苦しくなりました。火傷の写真、黒い雨を浴びた人々、小さな子の三輪車、あの日全ての資料が残っていました。思い出したくない悲惨なあの時の資料が今でも残っているということは、あの日虚しさ、原爆の恐ろしさを伝えたいという被爆者の思いがありました。

前日の平和学習の集いでは、被爆した人の話を聞き、全国の小中高生とのグループディスカッションを通して、平和とは何かを考え話し合いました。戦争は誰も幸せにはなりません。人と人が傷つけ合い、苦しむ社会が原爆投下から80年経った今でも続いています。今核兵器を持っている国は9カ国もあり、ニュースを見るたび心苦しい気持ちになります。いつ平和な世界が訪れるのだろうか。しかし、平和は訪れるものではなく自分たちでつくるものです。平和な社会をつくるために、一人ひとりが相手を思いやる気持ちを持ち続けることが大切だと学びました。

非核平和広島派遣事業に参加したことは私にとって、とても貴重な経験になりました。平和と核兵器廃絶を願う気持ちがより強くなりました。私たちが平和をつくることで、世界は変えられます。戦争、核兵器がない世界中の人々が幸せに暮らせる未来を実現するために。

行ったことによる学びと平和への気づき

八開中学校 岡林 百華

今回の非核平和広島派遣では、平和記念公園や原爆ドーム、平和記念資料館の見学、そして平和記念式典への参加を通して、戦争や平和について深く考える貴重な機会となりました。平和記念公園を訪れたとき、まず感じたのは静けさでした。しかし、その静けさの中にこそ、「二度と同じ悲劇を繰り返してはならない」という強い思いが込められているように感じました。原爆ドームを目の前にしたとき、建物の姿は今も当時のまま残されていて、原爆のすさまじい威力と痕跡がはっきりと伝わってきました。写真や映像では知っていたつもりでも、実際にその場所に立つと、より現実感をもって原爆の恐ろしさを感じました。

平和記念資料館では、被爆者の遺品や写真、証言などが展示されており、一つひとつの展示が心に突き刺さりました。特に、ある被爆者の日記には、日々の苦しみや恐怖、そして希望を捨てずに生きようとする強い気持ちがつづられていて、深く心を動かされました。

原爆投下から 80 年という節目から平和学習の集いがあり、「今、平和でない状態とはどのようなことがありますか」というテーマについて他都道府県の小中高生と話し合いました。その話し合いを通して、「いじめ」や「誹謗中傷」など、身近な問題も平和と関係していると知り、とても驚きました。これまでは、戦争や暴力だけだと考えていましたが、人を傷つける言葉や行動もまた、平和を壊す原因になると知りました。平和記念式典では、世界中から多くの人々が集まり、平和への祈りを捧げていました。広島市長や被爆者代表の言葉からは、今を生きる私たちが過去を忘れず、未来の平和を築く責任をもっているという強いメッセージが伝わってきました。

この広島派遣を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを頭だけでなく心と体で理解することができました。そして、私たち一人ひとりが「平和を守ために何ができるか」を考え、行動することの大切さを学びました。

平和な世界を

八開中学校 藤井 瑞人

1945年8月6日、午前8時15分。広島市の上空600メートルで原子爆弾がさく裂した。その1発の爆弾によって彼らの当たり前だった日常が消えた。

僕は、今回の派遣事業で初めて広島に行きました。戦争や原爆についても授業で習ったことぐらいしか知らず、原爆で人々がどんな被害にあったかまでは詳しく知りませんでした。しかし、現地へ行き、原爆ドームや平和記念資料館を見学したり、平和記念式典に参列したりしてその本当の恐ろしさを改めて感じました。その中で特に印象に残ったのが平和記念資料館で見た資料です。爆風などによって誰なのかわからないぐらい全身が火傷に覆われ、皮膚がただれている人の写真や原爆症を患った人々の写真など、被爆当時の状況をそのまま映し出したかのような資料がたくさんありました。正直、信じがたい、見るだけで辛い気持ちになるようなものばかりでした。しかし、原爆はそのくらい恐ろしい、この世にあってはいけないもので、被爆者は想像のつかないくらい痛くて、辛くて、悲しい思いをしたのだと真に感じました。

また、平和記念式典に参列して、僕は子供代表の人たちの「被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が私たちにはあります。」という言葉も印象に残りました。たしかに子供達が言うように、原爆投下から80年が経った今、被爆者の方々から直接話を聞く機会は少なくなってきています。だからこそ、今この事実を私たちが知ろうとし、被爆者がこの世を去った後も次の世代へ自分たちが同じような歴史を二度と繰り返さないように語り継ぐ必要があると思いました。

広島派遣でそれらの本当の悲惨さを知らなければ、このように戦争そして原爆についてここまで深く考えることはなかったのではないかと思います。だから、広島派遣を通してこうやっていろいろと学べたことはとても貴重な経験になりました。この経験を忘れず、次のステップへ活かしていきたいです。そして、より多くの人がこの事実を知り、相手に常に思いやりをもって考えて接する世の中、今世界中にある核兵器がなくなった平和な世の中になって欲しいです。

原爆の恐ろしさ

八開中学校 川路 進太郎

僕は、愛西市の非核平和広島派遣事業に参加し、広島を訪れました。実際に原爆ドームを見たり、平和記念資料館を見学したり、ガイドの方からの話を聞いたことで、行ってみないと分からない原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを、心から実感しました。

資料館には、焼け焦げた衣服や歪んだガラス瓶、当時の被爆者の日記などが展示されており、それら一つ一つが「命」の重みを伝えていました。特に当時、同じ年齢の中学生が原爆で亡くなっていることを知ったとき、「もし自分だったら」と考えると、胸が締め付けられる思いがしました。また、ガイドの方の話から、原爆で大切な家族を失いながらも、平和を願い続ける人たちの強さと優しさにグッとくるものがありました。「同じ悲劇を二度と繰り返してはいけない」という言葉を、僕は忘れないと思います。

僕は、非核平和広島派遣事業に参加したことで貴重な体験をしました。この体験を通して平和の大切さを実感すると同時に、これを自分の中でとどめておくのではなく、同じ世代の仲間や友達をはじめ、もっとたくさんの方々に知ってもらいたいです。世界中の人たち一人一人が平和について考えることができれば、戦争や暴力、差別などもなくなっていくと思います。

今現在の被爆経験者の平均年齢は86歳を超えています。なので、今生きている若い世代の僕たちがたくさんの方々に伝えていかないとはいけません。まずは、身近な人に話してみることが平和への第一歩となるでしょう。

非核平和広島派遣事業で感じたこと

佐織中学校 水野 太雅

私が非核平和広島派遣事業で感じたことは、2つあります。

1つ目は、戦争がどれほど悲しいものであったかということについてです。袋町小学校の見学では名前や伝言が書かれた壁があり、家族や友人を心配する気持ちが伝わってきて、悲しくなりました。被爆者の方のお話では、全身に火傷を負った人たちに水を求められていた時のことを聞きました。その方は、飲ませてあげたそうです。しかし、兵隊に「水を飲ませるな、飲ませたら死んでしまう」と叫ばれたそうです。この話を聞いて私は怖くなり、同時に悲しくなりました。また、原子爆弾は、戦争に直接関係ない人々にまで危害を加えていたことを知り、ひどいと思いました。平和学習の集いではさまざまな市区町村から来た人達とグループディスカッションをしました。その中で、広島の人々が他の地域に行っても「広島の人」というだけで差別を受けていたという話を聞き、とても驚きました。戦後に差別があったことは、とても悲しいことだと感じました。

2つ目は、今の平和について考えたことです。ディスカッションでは「今、平和でない状態とは何か」についても話し合いました。差別やいじめがその一例として挙げられ、これらの問題を解決するためには、「相手のことを知ること」「話し合いで解決しようとする事」「相手に歩み寄ること」が大切だという意見が出ました。こうした話を通じて、平和でない状態が意外と身近にあるということに気付きました。平和記念式典では核弾頭の約9割をロシアとアメリカが保有していること、ウクライナとロシアの戦争や中東の紛争が続いていることを知り、平和がまだまだ遠いものであると感じました。また、平和宣言で「世界に向けて平和を目指そう」と呼びかけていたことが心に残りました。

今、私たちにできることは、戦争について知ること、話を聞くこと、調べること、そしてそれを語り継いで未来に残していくことだと思います。

広島を歴史を学んで

佐織中学校 花木 健優

私は、非核平和広島派遣事業に参加し、原爆ドームの見学や平和記念式典に出席しました。初めて原爆ドームを訪れたとき、その姿に言葉を失いました。今にも崩れ落ちそうな建物は、かつての惨状を今に伝えており、戦争の残酷さがひしひしと伝わってきました。あまりにも無惨な光景に、胸が締めつけられる思いがしました。

原爆の破壊力は想像を絶するもので、数万人の命が一瞬で奪われ、多くの人々が家族や友人を失いました。その悲惨さと恐ろしさを目の当たりにし、戦争の愚かさを改めて感じました。戦争は決して人々を幸せにせず、多くの尊い命を一瞬で奪ってしまうのだと、深く心に刻まれました。

平和記念式典では、被爆者の方々の言葉を聞き、平和の尊さを改めて実感しました。戦争の悲劇を繰り返さないためには、私たち一人ひとりが平和の大切さを心に刻むことが必要だと強く感じました。戦争の恐ろしさを知ることは、自分たちの未来を守ることに繋がります。

今回の経験を通して、戦争の悲惨さを伝えることの重要性を深く実感しました。私たち一人ひとりが歴史を学び、戦争の悲惨さを忘れずに語り継ぐことが、未来の平和を守る第一歩です。教育や啓発活動を通じて、次世代に平和の価値を伝えることも重要です。

自分の思いを広く伝え、多くの人々と共有していくことは、より良い未来を築くために大切だと考えます。さらに、多様な文化や背景をもつ人々と交流し、相互理解を深めることも平和構築において重要です。私たちが未来に向けて行動を起こすことで、偏見や差別を減らし、共感と協力の精神を育むことができます。未来の子ども達に、平和な世界を手渡すために、私たち一人ひとりができることを考え、実践していきたいです。私も、平和のためにできることを考え、少しずつでも行動していきたいです。二度と戦争や悲劇が繰り返されないよう、平和な世界を築くために努力していきたいです。

原爆の恐ろしさと平和の尊さ

佐織中学校 林 勇太

広島派遣を通して、私は戦争の恐ろしさと平和の大切さを実感しました。これまで学校の社会科の授業で戦争や原爆について学んできましたが、教科書や映像で得た知識と、実際に広島を訪れ自分の目で見たことは大きく異なり、戦争の恐ろしさを強く感じました。

特に印象に残っているのは、平和記念式典に出席したことです。多くの人々が集まり、犠牲となった方々を追悼し、平和を祈る会場の空気はとても厳かで静かでした。しかし、そこには強い思いが込められているのを感じました。黙祷の時間、会場全体が一瞬で静まり返り、平和の尊さと命の重さを心から感じることができました。平和記念式典に立ち会うことができたのは、自分にとって大きな意味があり、生きていく上で忘れられない経験になりました。

また、広島平和記念資料館での見学も印象的でした。そこで展示されていた焼け焦げた衣服や肌、壊れた建物などの生々しい写真は、今自分たちが暮らしている生活と同じ日常が原爆によって一瞬で奪われたことを示していました。自分がもしその場にいたらどうなっていただろうと考え、原爆の恐ろしさと命の尊さをより深く思い知らされました。

原爆ドームや平和記念公園を訪れたときにも、多くの犠牲者の上に今の自分たちの平和があるのだと改めて意識しました。慰霊碑の前で手を合わせたとき、自分が平和な日常を当たり前で過ごすことができていることへの感謝の気持ちが湧きました。

今回の広島派遣での経験を通して、平和を守ることは誰かに任せるのではなく、自分自身が考え行動していくべきことだと強く感じました。戦争が身近にない世代だからこそ、学んだことを語り継ぎ、日常の中で「平和は当たり前ではない」と意識して、生きていくことが大切だと思います。この経験を忘れず、平和を守る1人としてできることを実践していきたいと思います。

広島派遣を終えて

佐織中学校 山下 琳久

原爆投下からちょうど80年となる8月6日、私は広島を訪れた。前日とは街の様子が大きく変化し、あたり一面が静まり返っていた。

訪れた平和記念公園では、朝から多くの人々が集まり、花や折り鶴を手向ける姿が見られた。それは単なる追悼の儀式ではないように感じた。中には涙を浮かべながら祈りを捧げている人もいた。

原爆ドームの前まで行くと、崩れ落ちた壁や歪んだ鉄骨が、当時の悲惨さを物語っているように思えた。80年という長い歳月が流れた今もなお、人類が経験した核兵器被害の惨禍を伝え、その姿を残し続けるために修復が行われているそうだ。このことから、過去の悲劇を風化させず、次世代へと伝えていくことが大切だと思った。

広島平和記念資料館では、被爆直後の街の様子や焼け焦げた衣類、核兵器の危険性がまとめられた資料などがあった。その一つひとつに、生きていた人の思いが込められていたと思うと、胸が締め付けられた。数字で語られる被害の大きさより、一人ひとりの人生が一瞬にして奪われたという事実が、どれだけ悲惨なことであるかを改めて考えることができた。

今回は平和記念公園だけでなく、袋町小学校平和資料館も訪れた。ここには被爆後の情報を伝えるための伝言が残された壁や、怪我をした患者の名前が彫られた木の柱などが残されていた。かつて子どもたちの学びの場であったこの場所も、被爆直後には多くの人々の救護所となったという。その場に立つと、怪我をした人々の多くが倒れ、苦しんでいた光景が浮かび、言葉を失った。このことから、原爆は人の命だけではなく、日常や人々の笑顔など多くのものを奪ったことが分かった。同時に、現在の広島に人々の暮らしや笑顔が溢れていることが、強く印象に残った。

過去の悲劇を忘れず前に進み続ける広島は、人間の強さそのものだと思った。

今回の訪問を通して、平和を願うことは単なる理想ではなく、今を生きる私たち一人ひとりの責任だと実感した。「平和」とは何か、その言葉をどのように自分と結びつけるのかを考え続けることが、今の自分にできることだと思う。

「広島で見た『画面越しじゃないもの』」

佐織西中学校 河邊虎太郎

1945年8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾が投下され、尊い命が失われた。終戦から80年経ち、被爆者の方々もどんどん少なくなっている今、自ら学び、広島のことだけでなく日本全体の出来事として自分の記憶に刻み込む。そういった気持ちで今回の広島派遣へ参加させていただきました。

今回の2日間は、全ての時間と活動が貴重な時間でした。小学校の見学、グループディスカッション、式典への参加、千羽鶴のお供え、原爆ドーム・資料館の見学、どの時間でも日本の戦争について学ぶことができました。特に資料館ではインターネットのようにモザイクが無く、多くの衝撃を受けながらも関心を深めることができました。私はそんな写真たちを見て、「この被爆者達の状況や、遺体の状態を見て、当時の住民・救助隊や遺族の方達はどんな思いだったのだろうか。いやきっと感情移入しきれないほどの複雑な思いが当時の人たちにはあったのだろう」と考えていました。資料館に飾られていた一枚の写真だけでも、当時の人々の表しきれない感情が溢れていました。

私は原爆について、「当時のアメリカからしたらこの原子爆弾は最高の兵器・日本からしたら最悪の兵器だったのだろう」と思いました。資料館で苦しんでいる人たちの写真を見ました。原爆は「どっちが悪い」ではなく、そもそも産んではいけない兵器だったと強く感じました。でも確かに日本が起こした太平洋戦争によって、実際にアメリカ・日本といった国に関わらず多くの方が戦争によって亡くなりました。もしかしたら、その状況を打開するために原爆を作ったのかもしれませんが、それでも原爆は作るべきでも、使うべきでもなかったと思いました。

私は80年経った今でも、こうして広島で式典が行われ、全国や世界の人々が広島に来て式典に参加していることに対し、素晴らしいと思いました。なぜならそんなことは、世界中の人たちが核兵器や戦争に対する「平和」という強い想いを持っていないのであればできないことだからです。あと何百年、何千年、何万年と続いていっても、八月六日は世界中の人たちが広島に来ることは、人の思いが絶えない限り、永遠に続けていって欲しいと思います。

今まで、歴史の授業やネット・ニュースでしか戦争のことを知りませんでした。しかし、今回の体験を通して、戦争というものをより身近に感じることができました。普段はあまり深く考えられなかった原爆のこと、被爆者の事、あの日に起きていた事。その多くを2日間で以前よりも考えを深めることができました。だからこそ、全国の学生や、まだ広島に行っていない大人たちは、広島に行き、原爆ドーム・資料館を見て、被爆者の方々の話を聞き、「過去の出来事」から「これから起こしてはいけない事」へと意識を変える必要があると私は思いました。日本人として、この生々しさ、憂鬱さ、哀しさ、虚しさは経験するべきだと強く思いました。

「世界平和への一歩」

佐織西中学校 長瀬倭

私は、愛西市による非核平和広島派遣事業に参加し、広島を訪れ、原爆ドームや平和記念資料館、平和記念公園などを見学しました。これらの場所を実際に訪れ、実際に自分の目で見ること、教科書や資料では得られない深い学びを得ることができました。

平和記念資料館では、原爆投下当時の被害の様子が記録されている写真、原爆により命をなくされた方々が遺した遺品、当時の様子を描いた絵などが展示されていました。私が特に印象に残っているのは原爆の熱により中身が丸焦げになってしまった折免滋くんの弁当箱です。お弁当を持って出かけていくなどの当たり前の日常が原爆により一瞬で奪われてしまった現実を目の当たりに感じ、「もし自分や周りの人が、、」と想像してしまい、戦慄しました。

また、原爆ドームを実際に自分の目を見た時、今まで教科書などで見てきた写真とは比べ物にならないほどの迫力を感じました。思っていたものよりも大きく、その建物が半壊させられるほどの威力を持った原爆を生身の身体で受け、亡くなってしまった人々のことを考えると胸が締め付けられる思いになりました。

私はこの非核平和広島派遣事業を通し、今私たちが平和な状態で平穏な日常を過ごしているのは当たり前ではないのだということに気づきました。そして、この平和は多くの犠牲によって成り立っていることを学びました。戦争が終結して約80年が経ち、戦争経験者が減ってきてしまっています。当時の状況、戦争による脅威がどのようなものだったのかを後世に伝えることができる人がいなくなってしまう、これから生まれてくる子供たちが戦争のことを全く知らないという状況になってしまいます。そのような状況が生まれると、戦争が再び起こり、過去の惨状がまた繰り返されることになってしまいます。そのため、私たちは戦争について戦争経験者から聞き、それを周りの人に伝えていく必要があります。たくさんの人々が戦争について知り、再び起こってはならないということを理解すれば、世界は平和に近づくでしょう。

戦後80年の私達

佐織西中校 野尻 望恵

非核平和広島派遣事業に参加して、どうしたら平和に近づけるのかが少しわかった気がしました。1日目の「第一回全国平和学習の集い」で実際に被爆された方のお話と大学の助教授の方のお話を聞きました。実際に被爆された方のお話を聞いただけでも、この会に参加できて良かったと感じました。お話を聞いて、生きるか死ぬかは運でしかなかったのだと改めて思いました。

印象に残っていることは、自己中心的・個人主義をやめろ、利己的はいけないと仕切りに話されていたことです。この他にも心に響くものや考えさせられる内容が多く、私がその時にしたメモの中で残しておきたいものを記します。「『今自分さえ良ければいい』は直していかなければならない」「先に謝れや憎いなどの話になってはいけない、相手の立場になって慈しみ合う」です。これらの言葉は何度も反芻しました。その度に思考がぐるぐると巡ります。

大学の方の話では、「平和は作ってもらうものではなく、できることを積み重ねて作っていくもの」「身近で平和作りをすれば世の中の緊張を和らげ信頼で繋がれる」という内容が印象に残っています。私は、この方のお話を聞く前は、戦争を無くしていくのには話し合いをすることが大切だと思っていたので、私たちが身近でできることはないと考えていました。しかし、話を通して、人が作っている、人が運営している社会だから一人ひとりの意識が変われば社会は変わっていくのだと思えました。たくさんの方が今より少しでも広い心を持って、人に接すれば社会がそして世界は変わっていくのだと思います。

2日目の平和記念式典では、市長、県知事の話が戦争を忘れつつある中での発言に一石を投じるような内容だったことを覚えています。また、平和記念資料館では、事前学習で、少しだけ見た大江健三郎の『ヒロシマ・ノート』の「エピグラフ」というものに載っていた「後世の人々の誰が理解できましょう？我々が光明を知った後、再びこのような暗闇におちいらねばならなかったことを」と書いてあった意味がわかりました。

最後に立ち寄った資料館のはじめに、戦争が始まる前の広島街並みが壁一面に貼ってあって、それを見て今とそんなに変わらないような生活をしていたことを知りました。水泳の大会も行われていたし、車のようなものもありました。そんな生活が、私たちが言うスマートフォンなど娯楽が充実している生活が、一気に奪われてしまうことが想像できて苦しかったです。また、被爆した方々の写真や絵を見て、なぜ小説や詩の中で被爆してすぐの状態の方を「人だったもの」と表現しているのかもわかりました。

事前学習や実際に行き行って学んだときに、目を背けたいとたくさん思いました。けれども、学ばなければならぬと始まらないとも思いました。知ることによって戦争はいけない、核はいけないと思えることができます。戦後80年になって、あの時に経験した苦しみが忘れ去られ始めていると思います。また、忘れた故に原爆の被害を軽視する発言や、戦争や人同士の対立感情を煽る発言が増えてきている世の中だと感じています。そんな今の時代こそ、昔に経験した苦しみを覚えて欲しいし、風化しないように繋いでいきたいです。

時代を越えて

佐織西中学校 里村 新菜

8月6日午前8時15分、平和記念式典での会場の静けさの中、黙祷の合図と共に平和の鐘の音がゴーンと鳴り響きました。原爆で亡くなれた方々の色々な思いが込められているように感じ、とても重みのある響きでした。「二度と同じ過ちを繰り返さないように。」と私も祈り、目を閉じました。

次に向かったのは平和記念資料館です。薄暗い空間に一步足を踏み入れると、まず目に飛び込むのは、服が皮膚に焼き付いて剥がれなくなっている人や、焼け野原となり何もなくなってしまった街でした。他にも、熱線で溶けたガラス瓶や、焼け焦げた壁など無機質な展示物の数々です。熱線で壁に焼き付いた人影は、その一瞬の出来事の恐ろしさを、言葉を越えて伝えてきているようで、まるで自分がその場にいるかのような錯覚に陥りました。人が一瞬にして焼け爛れ、一瞬にして消えてしまう熱とは一体どのくらいなのか。私達には想像もできません。無惨な亡くなり方をした、当時の被爆者の方々を思うと、心が締め付けられるようになります。さらに、心を揺さぶられたのは、被爆された方々の遺品や手記です。焼け焦がれた学生服、ぼろぼろになった三輪車、そして懸命に生きようとした人々の苦勞と、それでも失われなかった希望が書き綴られた手記を見て、何不自由なく今を生きる私たちに重く問いかけられているように感じました。

資料館は、ただ悲惨さを伝えるためだけの場所ではなく、なぜ核兵器が開発され、使用されるまでに至ったのか、そしてその後の被爆者達の苦しみや、平和への願いがどうであったかを、静かに、そして力強く語りかけているようでした。

平和式典での「いつかはおとずれる被爆者のいない世界」という言葉。被爆者の方のお話も、永遠に続くわけではないのだと気付かされました。戦争の記憶が風化してしまわないようにするには、私達一人一人の行動にかかっています。多くの人が戦争の事実を知り、戦争の恐ろしさを後世へ伝えて行く事が、未来の平和を守る力になると思います。

人も狂わしてしまう戦争を二度と繰り返さないために、平和を守るためにできる事を考え行動していきたいと思いました。

平和学習の集い ワークシート



「平和学習の集い」とは？

公益財団法人 広島平和文化センターが主催する平和学習プログラムで、被爆体験講話聴講等の平和学習会に加え、全国の小中高生とのグループディスカッションが行われました。

愛西市が参加した8月5日の回には、13市区町村・129人の小中高生と49人の広島の中高校生ボランティアが参加しました。

グループディスカッションテーマ

- ①「あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けましたか。」
- ②「今、平和でない状態とはどのようなことがありますか。それはどのようにしたら解決できると思いますか。」

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

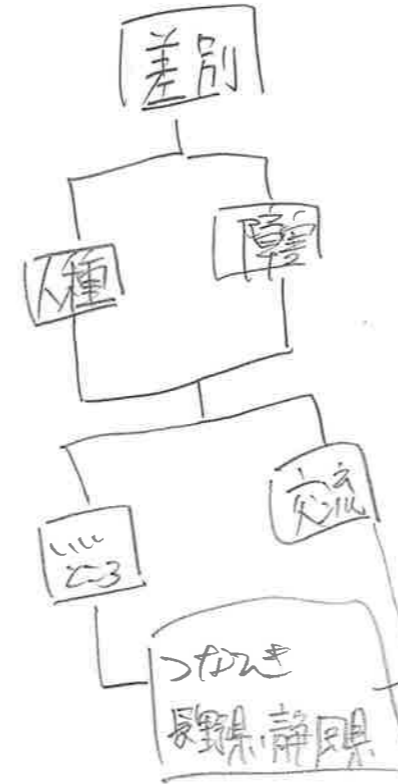
第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

岡山県 岡山大空襲 1945年6月22日 午前8時36分
米軍の攻撃 死11名 重傷11名 軽傷35名 爆弾603t
水島航空機のはかい 倉敷は攻撃受けず
青争岡 かみずめはくたん

○テーマ2



○発表内容

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
 会場：ANA クラウンプラザホテル広島
 3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
 グループ・ディスカッション ワークシート

2班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

愛知
 岡山
 福島

千葉
 静岡
 新潟

○テーマ1

愛知 工業都市 63回の空襲。工業の生産が困難
 食料が減る、

岡山 6/2 水島大空襲。軍用工場が多い
 秘密工場
 戦きみつにより被害が知らず知らない

福島 B29による被害
 編隊11機が飛来
 グンセン工場周辺

千葉 疎開先 食料を求められる
 農地解放指令(初)
 1945 6/10 千葉空襲 391人
 7/7 七夕空襲 1204人

静岡 静岡空襲。
 静岡、浜松、沼津
 軍事工場が多い
 空襲のあと、多く残る戦争の世
 浅羽からの出兵
 本土決戦、遠州灘の上陸予想
 馬れいせくの生産、国民学校
 東南海地震によるひかい

新潟 8/1 長岡の空襲
 長岡の花火
 しらぎでのついで

○テーマ2

- 誰かが傷ついたり、まかの状態にあると、
 - ロシア・ウクライナの戦争。敵対している同志もなく、あつての人が話し合う
 - 違う国同士で、話し合う。
 - イジメ、戦争、人種差別
 - 核を持っていること、戦争があるということ、
 - 互いを尊重し、それぞれの良し、美しを見つけよう
 - まず、知り、知らないで考えることはできない
 - 考え方の違いを武力で解決しないこと
-
- 相手の気持ちも考える

○発表内容

戦争などに使う機械を作ったり、人口が集まっている中、集中的な空襲が行われ、逆
 に、内陸部の人々がなく、輸送に不利な地形のため、武器の生産が盛んでは
 ない場所へ、空襲されること自体は、食料の確保が多いため、疎開先は選ば
 れることはあつた。

○発表内容

まず、私達が考えた、「平和ではない」という定議について話し合いたいと思います。
 その定議とは誰が誰が傷つける世の中が定議していることだと思ひ、その解決策とは、
 前提として、核の保持を全ての国で一律に止めること。私達の目玉は、世界中を平和
 にするために必要なことは全ての国が話し合い、考え方の違いを認め合い、解決策を出すことだと思
 いました。そのために、核を廃止し、全ての国が平等な立場で話し合おうとなつていけると思います。
 思うことで、平和な世界に一つずつ進んでいけると思います。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

互いの正義のぶつかり合いがなくなり、一つの正義が定まること

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い

グループ・ディスカッション ワークシート

3 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

○ 古屋大空襲 「豊田、みづび」を中心に攻撃
1945 3月-5月

○ 大井町大空襲 「大井町」の工場

○ 浜野大空襲
戦争中の地震

疎開 (学童疎開)

食料不足

○テーマ2

○ 戦争が起きている
→ (人々を認め、尊重し合う)

○ 難民問題

○ 外国人差別
※ 世界だけでなく国内でも

- ⇒
- 食料不足
 - 差別をなくす
 - 互いを思いやる
 - 互いの宗教の違いを理解する
 - 子どもは良くないことを教えない
 - 寄付や募金
 - 後世の人に伝えていく
 - 何が起こっているのかを理解する

◎ 一人一人の尊厳を尊重

◎ 短所だけでなく長所も大切に

○ 平和

○ 紛争

○ いじめ (身近なこと)

→ (人々を認めること) があるか、話を聞く
- 起きていることを相談する (寄り添う)
- 嫌いな人と思わせない (トクイ)

○ 貧困

→ その国を築き上げる

○発表内容

何かしら目的 (財団)

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い

グループ・ディスカッション ワークシート

班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

- 福島 4/12
- 名古屋 7回爆撃 東山動物園 動物が逃げ出さないように殺される
火 7851人死亡 被害家屋13万
- 新潟 5/5 アフリカは"トム" 3人(死) 5人(負傷)
→ 日本では被害はと報道された。
大寒波 → 肺結核、マヒン {オーストラリアの人は} アフリカ人は7人もてた
- 戦争 被害(少) 車両収められ 跡が残っている。
東南海地震 戦争中 マニラ 1945 小学校20人死
の石碑
- 千葉 目的になること(少)
軍事動員 1945 2/25 民家全焼
- 広島 大久野島
毒ガス製造 使われた 加害者もいる

○発表内容

○テーマ2

- 差別、人権、戦争、正しい情報、いじめ、戦争、紛争、
貧困、人種差別
- 身近な平和を(あげ)たいけば大きなものに! ← 解決策?
- 戦争かいつ? 戦争について
→ EX ケンカ : 任せ怒る? (セリ) 母否定のみでなく聞かせる 母語"ク"
いけんがよりよいものになるように (アラス) のいけんを出す!
○興味をもつ (戦争は毎日世界で何が起こっているか)

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

5班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)
袋井市, 三原市, 愛西市, 大玉村, 白井市,
妙高市

○テーマ1

静岡 = 袋井市 → 東南海地震 ⇒ 143名死亡, 負傷者426名
(S19年12月7日)

袋井西小学校でも 20人死亡, 30人負傷
現在の

↳ 「袋井震災」 + アメリカ軍の空襲

↓
絶望

愛知 = 1942年 (9月18)

↓
1945年 (7月26)

名古屋

人口(77) ↳ 標的に [63回, (被害者) $\frac{7858人}{死亡}$, $\frac{10378人}{負傷}$]

○テーマ2

↓ 考え方の違い

平和 × = いじめ, 対立, 衣食住

〈安心できない環境〉
(してくれない)

解決法 = 言動をためる, 相談できる人, (頼られる人), 原因を考える,

↓

相手のことを考えつつ,
自分の行動を見直す!

↓
同じことを
繰り返さない
ために!

○発表内容

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
 会場：ANA クラウンプラザホテル広島
 3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
 グループ・ディスカッション ワークシート

8 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

沖縄県石垣市 岡山県倉敷市 愛知県愛西市
 東京都千代田区 新潟県五泉市 埼玉県 萩市

○テーマ1

沖縄単独
 20万人死亡 県民の4/5以上。唯一日本で住居を券きこんだ
 戦争マテリア。今でも危険
 水は空しか
 兵器を作る場所を助げき、今は住宅地
 死亡11人、けが11人。110名死とされた

武器が作られている工場が知られていたりしていた。(各地で)
~~空襲や原子爆弾の被害を受けた地域で避難して来た~~
 人が受け入れられる食料不足の心配をされて避難先を出ていた。

○テーマ2

・学校に行けなくて
 ・おばあちゃんを介護
 ・平和を知りたかった

○発表内容

直接受けつけてくれるのが、こころを打つ
 ・直接受けつけてくれるのが、こころを打つ
 ・直接受けつけてくれるのが、こころを打つ
 ・直接受けつけてくれるのが、こころを打つ

○発表内容

自分の身を守るために
 相手の思いがけず目撃した瞬間
 ・相手の思いがけず目撃した瞬間
 ・相手の思いがけず目撃した瞬間

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

A-8 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

水島 → 月55機を制作。
名古屋 → 3国の空襲、工業を壊された。
長崎 → 広島より強力な原爆。ただ目標の地点がずれため被害が少なかった。
平和 → 5月29日、空襲、3650人死亡。
大島 → 大久島は毒ガスを作っており、
社を実験台としていた。地図から島
を消していた。今でも後障害が残って
いる。
中津製鉄所におとすつもりだったが雲で
見えなかったため、長崎におとすことにな
った。

○テーマ2

平和じゃない状態
・人口が安心して生活出来ない。(難民が多い)
・人種差別
・おたがいの宗教の教えを基に違っている(対立)

少しでもこう(平和)について語り続けていけたらいいな
・げんじょうを知って、(出来たら)世界の人と交流が出来るように
・「アセカウンセリク」
・他文化交流、もっと大きければ他の国とも交流をしてみたい
・と本と本の文化の違いをみとめる

○発表内容

大きな都市の近くにある小さな都市も深い関わりがあった。
小さな都市にも深い戦争との深い関わりがあると知った。

○発表内容

小さなことから始めていって文化や意見を広げ認め世界とつながって
いくことが大切だと感じました。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い

グループ・ディスカッション ワークシート

9 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

- ① 空襲、戦後には伝わりておらず被害
- ② マリアに感染 → 間接的被害
- ③ 海兵隊 工場破壊のための攻撃
- ④ 2/1 長兵：空襲
花火 → 同じ原因で戦い < 平和な使われ方
- ⑤ 家 = 爆弾
戦争 = 行く = 4か 5か → 帰る = 3か 4か 5か
- ⑥ アメリカ軍、空襲の被害者
軍事工場がAPAのため

○テーマ2

- 状態** 戦争、いじめ、障がい者差別
- 利不図に傷、けがした戦争が当たり前
 - 〇 = が "平和でない" のが当たり前
 - 他人がさしてたい見て見ぬふり
 - まわりの子、いじめに流れる
 - 学んでも、実際に受け取めらぬではない → 他国、歴史で

- 解決** あいさつ、共感、自分事
- 多面的に物事を見る、考える時間
 - 相手の思いやり
 - 嫌なことは相手にしない
 - 協力！！
 - 今日知ったことを皆に伝える！！

○発表内容

いろいろな場所で空襲が起きていて、
[理由は工場が多く、それを攻撃して壊すため
被害は大きいところも小さいところもあって、
今は全くわがうかんきょう]

兵隊に強制的にさせられ、
本当は行きたくなくても行かされた。
復興や被害も伝えるための
施設や花火が行われたり。
がつくられたり。

○発表内容

世界レベルでは戦争身の回りでは、いじめ、SNSの誹り中傷差別がある。
相手のことを大切にする。 平和が当たり前なもの。
学んだことを広めていく。 一方でどこかが平和でないのが当たり前なもの平和ではない。

※8月12日頃にGoogleドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

10班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)
- 東京都 4代田区
- 岡山県 倉敷市
- 埼玉県 本庄市
- ユース・ピース・ホライズン
- 愛知県 愛西市

○テーマ1

- 空襲による被害が大きい
- 木造建ちく → 火災
- 関東
- ↳ 3月で水温が低い
- ↳ 凍死
- 各地域で、死者の数が少ないが変わる。

○テーマ2

- 紛争, 戦争
- ↳ 自分の思いを伝えあい、話を理解するように
- 差別
- ↳ 思いやり, 平等, 対等に話し合う

○発表内容

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

11 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)
愛知県 愛西市 長野県 塩尻市 ユースピース
岡山県 倉敷市 東京都 千代田区 ボランティア
埼玉県 本庄市

○テーマ1

- 愛知県 名古屋大空襲。7回の攻撃で大きな被害。攻撃でこわれた動物園のライオンなどのたくさんの動物が、入をおそわないよう射殺された。
- 長野県 被害が少なかった→疎開した人が多い。
- 岡山県 米軍 B29機おそわれた。大規模な空襲だったが新聞には大きくのらなかった。
- 東京都 3月10日、東京大空襲。大きな被害。日本銀行の金庫残る。これからの建築の基の考え方につながる。
- 埼玉県 大きな被害となった。
- 広島県 差別がひどかった。

○テーマ2

- <平和でない状態>
- ・自分には関係ないが大きいことにつながる→問題。
- ・差別→たくさん差別。
- ・差別やいじめ。→相手を知る。
- ・たがいにあゆみよって話し合う→貿易の関税。
- ・いじめをなくすために→暴力以外の方法で解決。
- ・身近な争いをなくす→自分を知ってもらう。
- ・核や銃がなくなる。
- <解決策>
- ・差別の現状と歴史を知る。

○発表内容

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い グループ・ディスカッション ワークシート

13 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)
ユースビーズ 己斐上中学校、岡山県倉敷市、愛知県愛西市、
埼玉県本庄市、長野県塩尻市、東京都千代田区
計6名

○テーマ1

広島 原子爆弾

ディスカッションのメモにかいて
しました

県の大きな損失を
狙われていた、

○発表内容

どこの県も、空襲や核が被害として、あった。ねらわれた場所が武器を
工場が集中しているからねらわれたというのが共通していた。
後遺症の原因として身内や家族が亡くなる悲しみがストレスにつながって
精神的影響の被害が起すといわれた。

○テーマ2

- 武器を使った戦い → 核兵器廃絶、互いの核なしで歩む。
- 差別、自由を制限されている → 思いやり
- へんげんから生まれるいじめ → 総合理解、相手の立場になって考える
- 犯罪が起きている → 人々の意識
- 物価が高い (私達が解決できることか) → 選挙に参加する
- ロシアとウクライナの紛争 → 核兵器廃絶
- 宗教団体の争い → 互いの理解
- 「何とぞんだ」い → 歴史的な背景を互いに学ぶ
- 貧困 → ぼん、(ハートネーション、フードドライブ)
- モロツク、気候変動 → 人々の積みかさね。(エコに)食品ロスをなく、ごみを出さない

○発表内容

をなすには
平和ではない状態を、人々の意識、思いやりが大事、
小さな事でも、大きな事でも、平和ではない状態を作っている原因
になっている。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

裏に

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い

グループ・ディスカッション ワークシート

16 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

広島市 矢野中学校
広島市 観音中学校
岡山県 倉敷市 味野中学校
愛知県 愛西市 佐屋中学校
神奈川県 伊勢原市 成瀬中学校
長野県 塩尻市 広陵中学校

○テーマ1

岡山県 → 軍事用の製品をつくる
空襲 ぼう空かんしとう

愛知県 → 名古屋の大空襲 産業のはかい 名古屋城のはかい

長野県 → 大きなひがいはなからたが、工場などのひがいがあり生活がくるしくなっていた

神奈川 → 横浜大空襲 市外地全体がひがいに
よこすか空襲 56人の死者で 海ぐのきちが
ねらわれた。

○テーマ2

ウクライナ進行
↳ かつてな国の行動で国民が振りまわされている。 **平和ではない**

社会
↳ 戦争がさへつが今でもある。なくすには、考え方の違いをみとめあうことが大切

いじめ
↳ 思いやりや対話を通して平和を広げる。世界にかんしんを持つ

平和について考える
↳ 世界で平和について考える時をもつとつくる **1人1人が深く考える**
戦争する選択をなくす

へんけん
↳ 相手を決めつけることで戦争へとつながる **相手のことを考える**

お互いのことを知るために会話をあそ、それは国同士でも大切に!!

○発表内容 はいめは1人1人ひがいたかと思っていたが、市が地などの人が多く集まるころや工場地帯の被害が大き、被害が少ないころも疎開先となり食料不足などの問題があるなどの

それぞれの県によつてひがいの形が違ふ
↳ 違ふからこそ一つのひがいが大きい。

○発表内容 差別をしないことや、

思いやりや対話をとあして平和を広げる、戦争を行う選択肢をなくす。
お互いのことを知るために会話をあそ、の考え方やちがいを認めるために

→ 世界の平和につながる。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い グループ・ディスカッション ワークシート

18 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

ふうか、ゆか、ありさ、ひでし、たくみ、いしな、あおい

○テーマ1

埼玉 (本庄市)

→ 熊谷市 ... 市が11月の3日の11時30分には、

暴風

→ 川に飛び込み、みんなが川に落ちて川があつたて死んでしまう人もいた。

現在 → とうとう流して今までもひきついている

沖縄

→ 1945の3月〜9月

待たう ... 日本での唯一地球上でアメリカと戦争した人

→ 約20万人もの死者

集団自決しアメリカ兵に殺されるまにに家ごと死のうとする

長野

→ まんこうかいだったん

→ 日本 → とうとうほとんどの人が戦争にはまんこうかいになった
アメリカから空襲を向け小さい子供も死なせた

185000人がしゅうまじまでなくなった

→ しゅうせん後は東京から移住者を受け入れた

岡山

→ 水島空襲 ...

○テーマ2

→ アヤカ + ちくなどでの内戦が

→ 自分中心ではなく、相手の身になって考える事が大事。

今も行っている戦争

→ 総理 とうとう話し合うこと

→ ... 自分たちも冷戦に話し合うことだ。

} 100を積みかさねていくことで
未来が変わっていく。

空気に生かされて来きない

→ みんなが平和について考え、伝えて、広めることがとても大事

→ 自分が感じたことを持ち帰ることが大事。

果敢ない

→ 自分の感情で行動するのではなく、人の事を考えて行動することが大事。

貧困 (目に見えないもの)

→ インドにせず、しっかりと向き合え、次の世代に引きつる事が大事

性別などの感情

→ 身近かなところから平和について学習、考えることが大事

共存して生きる事も必要

○発表内容

... 地方の被害について話し合っ、自分の住む埼玉県や茨城の習、
内容以外に7月12日、日本と1つの国が1つを、違う和山
被害を受けた2113と2011年11月 (一番印象的だったのは長野県の滝川村)
というものが、滝川村は7月12日に被災し、共エヒナリ7月12日に命を落とすという内容だった。

○発表内容

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

19 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

長野... 都会からの子供を受け入れた。空襲の被害を受けた。
神奈川県... 空襲の被害を受けた。
千葉県白井市... 空襲はなかった。戦争のための食料を作っていた。
広島県... 爆風におもた被害
岡山... 耳をふさぎたくなるようなたましいことかある。
愛知... 空襲によって動物園の動物が脱走しないように、動物が殺された。

それぞれの県で平和について考える機会はあるか？

千葉県では、平和について考えることが少ない。
岡山県では 5月くらいに広島へ平和学習をいに行く。
それぞれの県で平和について調べてきたことはあるか？
神奈川県... 沖縄県のことについて調べた。子どもたちも連絡網として使われていた。

○発表内容

どの県でも戦争の被害があった。
平和について考える機会がある県と平和について考える機会が少ない県があった。

○テーマ2

・差別やいじめは戦争から遠いようで近い。
・インターネットを使ったいじめや差別も行われている。
→ 解決するにはお互いの価値観を理解することが大切。
→ 人間は自分と違った意見を認めることが難しいのでお互いの正しさがぶつかり合っている。
・貧富の差を知っている人が少ない。
→ 友達や周りの人達に伝え、知ることが大切。
・自分勝手な考えを持つ人が国のトップになってしまうと周りのことを考えず戦争を起してしまう。

○発表内容

差別やいじめ、SNSでのいじめやいじめがある。それを解決するためには相手の考えも大切にしなければならない。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

20 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

愛知県 愛西市 豊橋市 塩尻市
岡山県 倉敷市 神奈川県 伊勢原市 千葉県 白井市

○テーマ1

- 長野県塩尻市は、空襲は、少くはなかった。
- 岡山県倉敷市は、1952年 船空せいさくしよに空襲され、工場をねらわれた。
- 神奈川県伊勢原市は、ヘリの空襲で山に落ちる子供が死んでしまった。
- 千葉県は、東京に近いので、ぐんじしせつがたく、2回の空襲がおきた。
↓
千葉空襲は、1000人を超えて9000人もまじり、
いろいろな問題が大戦中があった。

○テーマ2

- 平和ではない状態 解決法
- ロシアとウクライナ戦争 相手思い、話し合う、利己的ではない
- 平和の意識が低い状態 相手の意見を尊重
- いじめ 互いの思いを伝える

○発表内容

いろいろな県市で大戦中問題を
かかえていた。

○発表内容

平和ではない状態 → 人の対話ができていない状態
→ 思いを伝える話し合い
話し合いをする時 互いの意見を尊重 自分の主張を押し伝える 相手理解しようとする

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い

グループ・ディスカッション ワークシート

21 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

倉敷市・愛西市・伊勢原市・塩原市・白井市

○テーマ1

- 倉敷...水島という村では戦闘機を制作する工場があった。
昭和20年に工場が空襲に会い、工場内の死者は2名だったが、流石院にあり、地味住民の死者は5名だった。
- 名方屋...この空襲被害が深刻していた。
63回目の空襲の被害が最も大きかった。
- 豊川市...海軍工場があり、昭和15年の1回の空襲で最も多い人数が亡くなった。
- 富山市...軍用工場があり、1945年8月2日に富山大空襲が行われた。
富山大空襲では2時間以上50万発以上の焼夷弾により多くの人が亡くなったが、翌日の新聞では「情報が隠されていた」。
- 長野...山が崩れたため、食料が足りなくなり、食料が足りなくなった。食料が足りなくなったため、食料が足りなくなった。
- 千葉...太平洋戦争中の空襲は少なかった。
7月7日に7回空襲とよばれるアメリカが千葉市を目標とした大規模な空襲を行った。
農村の人々が軍に行くことで人手不足になり、労働力が足りなくなり、農作物が足りなくなった(食料が足りなくなった)。

○テーマ2

- いじめがなくならないこと→地域社会などみんなが協力するとなくなるのではないかと相談できる環境
- 抱心して生活できないこと→けんがや戦争をなくするために話し合うことルールを守ることが大切
- ウクライナ戦争、米中争いのこと→自分達で解決することは難しいが、悲しさを後世に伝えていくことが大切
- 「自己中な考えの対立」→思いやり、いろいろな方向を見る。
- 戦争・暴力・米中争い→信頼し、平和への理解を深める

○発表内容

工場や大都市などの方が多量に被害を受けた。
また、軍事施設などがある、戦力削減を促した。
国は疎開先となった、多くの都市で食料不足が深刻だった。

○発表内容

戦争が終った世界は平和ではない。
ただ、戦争のことを考えたり、思いやりをすることで解決するのではないかと。
また、いじめがなくならないことも平和ではない。
解決するために学校、家庭、地域社会などを通じて、信頼し、相談のできる友達、環境をつくり互いに助け合うことが必要だと考える。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
グループ・ディスカッション ワークシート

22班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

○テーマ2

- 〈平和でない状態〉
- いじめ、差別、いんち(意見の対立)
 - 経済格差、貧困
 - 戦争、内乱
 - 武装、怖いと生活できない社会

〈解決法〉

- 一人一人が意識を変えていく
- 選挙で自分達の納得できる結果をつくる
- 対立しないために、思いやる、相手のことを考える(周りを見る)
- 他人を怖がると思わず、積極的に自分から動く
- 自分の利益を追求しない

○発表内容

- ・空しく、東条、大分、神奈川、愛知、岡山
- ・エビ川、千葉、広島、山梨
- ・三重、核は心の空しくじょけん2" 知この地域の危機"あり、
- ・静岡、まじゅうこうし (人セト2モクE, うろぬc. じゅうの乱反料)

○発表内容

- ・被害の内容はたのむこと危険性を強調し、核の廃止をうたえる
- ・武装して安心する社会は平和ではない
- ・核廃止

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
 会場：ANA クラウンプラザホテル広島
 3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い
 グループ・ディスカッション ワークシート

24 班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)
 千葉県市川市 愛知県愛西市
 静岡県袋井市 岡山県倉敷市
 長野県塩尻市 新潟県

○テーマ1

岡山 広島大空襲
 町中(工業)を祖とした攻撃
 死者は少ない

愛知 名古屋大空襲
 7回による空爆
 工場 動物園 動物園の動物が逃げた5羽に被害
 千人八百人近く、死者
 (万人近く)の被害者

長野 東京からの食糧不足が原因で40%
 → 食料不足が原因 → 栄養失調

新潟 長岡空襲により火事
 → 川に船が沈む原因が激化

静岡 7x10年 約30機

千葉 (30機) 空襲により
 家屋全焼
 ↳ ⊕ 秋の生草が1

広島

共通
 ・工業地帯に空襲をうける
 ・農村に空襲をうける
 ・広い地域は食糧不足が原因

疎開

○テーマ2

いじめ、人の対立 → 思いやり大事
 差別、人種差別 → 見て見ぬふりではない
 認めよう、自分たちの視点にたつた
 思ったことをすぐに口に出さな (1回) じゃあ、やめよ
 戦争、殺害
 相手の気持ちで思いやんなし、その場を逃す → 正しい知識、理解
 相手の考えを受け入れよう → 自分と相手の心、寄り添う力をつける
 いじめ、差別、不公平、災害事 → 多様な価値観を尊重し、ボランティアに参画する
 犯罪 → 意見の違いによって生まれる → 相手の価値観を尊重する
 ↳ 100% ノンファンクショナル

日常にも平和じゃないところがある
 -人-人から少し、行動が違えば大喧嘩になる
 身近なところから始めないと何とかならない

○発表内容

共通点
 ・盛んな地域に空襲の被害
 ・盛んな地域は食糧不足が原因 → 栄養失調

○発表内容

いじめ、差別、戦争、犯罪という平和ではない状態は、
 -人-人から少し、行動が違えば大喧嘩になる。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。

8月5日
会場：ANA クラウンプラザホテル広島
3階オーキッド

第1回全国平和学習の集い

グループ・ディスカッション ワークシート

班 (下記に参加者の自治体名を記入してください)

○テーマ1

愛西市 空襲は受けなかったが、食糧不足。
 長野県 長野空襲、清州へ行く人も多数
 岐阜県 東京大空襲 1000軒以上が焼け野原に。
 埼玉県 シリア 抑留から帰還
 岡山 空襲や食糧不足、疎開も受け入れていた。
 広島 水島大空襲 工場破壊、603トンの爆弾
 広島 原子爆弾(原爆)を投下。
 本を読んだり、家族に聞く。
 忘れたいようにテレビを見る。

○テーマ2

平和でないこと
 - 世界79ヶ国が核を保有 → 広島は惨劇が繰り返されることが怖い。
 ◎差別、いじめ
 - 2ヶ国間の感情、不安な感情があること。
 - 食料不足
 - 世界での戦争
 ◎貧困や飢
 解決するために、
 ◎核の廃絶
 ◎相手を知ること大切にする、決めつけない。
 - 相手も尊重する、思いやる。
 - 他人事と思わずに考える。
 - もし自分たちが○○したらどうなるかを考える。
 ◎ボランティアなど自分の力から行動する。

○発表内容

広島だけでなく、各々でも空襲や食糧不足などの被害を受けていた
 ことを知った。軍事施設を目標に空爆をおこなっていた。
 のほかい

国のためだけに命がうばわれたり、生活がこぼされたことカッ

○発表内容

戦争など大規模なことだけでなく身近なことも遠い国のこともきちんと向き
 合っただけでいいのか考えていく。

※8月12日頃に Google ドライブで共有します。 y.f.u.i.n

